

## 治療方法

### ■初期治療

まず近くにいる人を大きな声で呼び寄せ、援助をお願いします。そして救急車を要請すると同時に、自分たちで出来る処置を始めます。

かまれた部分の中枢側（よりからだの中心部に近い側）を軽く縛り、毒素が中枢側に出るだけ及ばないようにします。（写真②）そして、咬み口の部分を口ですって、毒素を出来るだけ吸引します。ナイフなどがあれば少し咬み口を切って、血液とともに吸引します。もちろん吸った液はすぐに吐き出します。沢水などあったら、傷をもみ出しながらかい洗うのも有効です。

救急車が入らないような山の中であれば、救急車が待つ場所まで降りていく必要がありますが、あまり走ったりすると毒素の回りが速くなるとされていますので、あわてずに降りていきましょう。



### ■病院での治療

病院に到着したら、まず点滴を開始し血管確保を行います。処置中にショックを起こされることもあるからです。

次に初期治療でも記述しましたように、傷局所の小切開、毒素の搾り出し、洗浄を行います。しかし受傷から1時間近くたっていればもはや有効ではありません。

薬剤では、マムシ抗毒素の点滴を行うことがありますが、これは馬の血清ですので人間にはアレルギーを起こす場合があります、副腎皮質ホルモンなどを同時に使用し十分な監視のもとで行う必要があります。受傷6時間以内では効果があります。

ほかにセファランチンという、漢方生薬のような薬剤があります。また同時に破傷風菌の感染が疑われる場合には破傷風の予防薬や、抗生剤の使用も行います。

多くの場合は2-3日で腫れや痛みが引き始め、1-2週間で治癒しますが、中にはショック症状など全身症状が強くなり、0.3%程度の死亡率も報告されていますので、入院の上最低24時間は厳重に経過観察を行う必要があります。

### ■マムシ以外の毒ヘビについて



ヤマカガシ

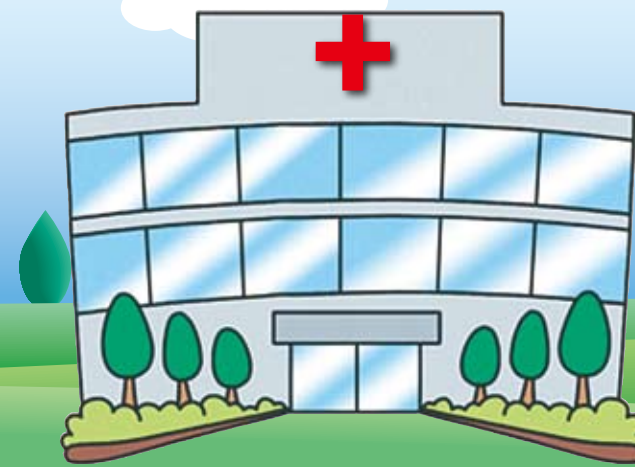
シマヘビやアオダイショウなどの毒を持たないヘビもたくさんいます。一つ注意していただきたいことがあります。それはいままで無毒とされていた「ヤマカガシ」というヘビです。

「ヤマカガシ」はアオダイショウやシマヘビと同じ仲間のヘビで、長い間無毒と考えられていましたが、1972年に中学生が噛まれて死亡する事故が起きてから、毒ヘビとして認識されるようになりました。マムシとは違って激しい痛みや腫れはあまり起こりません。ただし、血小板（血液が固まるのに必要な成分）が破壊されるため全身におよぶ皮下出血、内臓出血がおこり、腎機能障害や脳内出血を引き起こすことがあります、要注意です。

### ■「おわりに」

自然豊かな山都町ですので、ヘビのほかにもムカデやイノシシやシカなど、人間にとって厄介な有害鳥獣もたくさんいますね。もちろんこれらの生き物が住めないような世界にもなったら、そのときは人間も生きてゆけないような世界になっているのかもしれない訳で、それも恐ろしいことです。人間も動物もお互い自分の身は自分で守りながら、共生して、美しい山都町を維持してゆかねばなりません。それにしても毒ヘビには充分に気をつけて、お過ごし下さい。

《参考：自然環境教育センター <http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/index.htm>》



## 蘇陽病院だより

### ～蘇陽病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。」

### 特集

## 知って得する健康講座

### 第32集 「マムシ咬傷」

山都町立蘇陽病院 病院長 水本 誠一

### はじめに

長く寒かった今年の冬も過ぎ、稲の早苗が美しい、山都町にとっては最も過ごしやす季節になってきました。皆様健やかにお過ごしでしょうか。

ところが困ったことに、ヘビやムカデなどの有害動物・昆虫などにとっても過ごしやすく活躍の時期となってきました。田んぼでも増えてきたカエルを狙って蠢く（うごめく）ヘビを見かけるようになりましたね。みなさんの中にも苦手な人もいらっしゃるでしょう。私もヘビが大の苦手です。ともあれ、今回は我々の病院にも毎年2、3人は患者さんが運ばれてくる「マムシ咬傷」について、お話をしましょう。

### ■マムシの特徴

マムシ（山都町では「マヘビ」とも呼ぶようですね）は琉球列島を除く日本全土に分布し、特に7・8月に多く姿を見せます。典型的には胴体に銭型の斑紋が並んでいて、頭は口を頂点とした三角形のものが多くです（写真①）。上あごの先端に2本の毒牙があり、この牙で人間に咬みつくことによって毒が注入されます。沖縄のハブが猛毒で恐れられていますが、実はマムシの方が毒性は強いのだそうです。咬まれた瞬間、ヘビの姿はなかなかじっくり観察できないものですが、咬み口が通常2か所であることが特徴です。



写真①

### ■マムシにかまれた時の症状

まず咬まれた直後から、激しく疼く痛みが出現します。そして短時間に腫脹（はれ）が進行します。たとえば手の指先をかまれた場合、約2-3時間で肘まではれあがり4-5時間で腕全体まで及びます。適切な治療を行わないと胸まで腫脹が及び、重症では血圧低下、めまい、意識低下などの全身症状が出る場合があります。

もう一つ特徴的なのは、咬まれた部分に近いところから、赤黒い皮下出血や、筋肉の壊死が起きます（写真②）。重症例では結果的に指の切断が必要な場合もあります。ですから、逆に言えば、咬まれた後いつまでも痛みや腫れが来ないようであれば、無毒ヘビに咬まれたか、マムシでも毒素が注入されなかったと考えてよいようです。



写真②